



## 多摩ブルー・グリーン倶楽部

---

# 平成26年度例会・事業報告書

---

日時 平成26年12月11日(木) 午後2時～

会場 パレスホテル立川 4階ローズルーム



# 多摩ブルー・グリーン倶楽部 平成26年度例会・事業報告

## 目次

1. 例会報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
2. 事業報告・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

## 多摩ブルー・グリーン倶楽部 平成 26 年度例会・事業報告

多摩ブルー・グリーン倶楽部では、平成 26 年度例会・事業を以下のとおり行いました。

### 1. 例会

#### (1) 第 17 回例会

- ① 日 時 平成 26 年 4 月 10 日 (木) 14 : 45～
- ② 場 所 たましん事業支援センター (Win センター)
- ③ 内 容 ■平成 26 年度事業計画について

#### ■講 演 会

『60 年前の多摩』

講 師 嵐山 光三郎 氏 (作家・エッセイスト)

『戦略を超える理念経営～成果と人間関係を両立する組織づくり～』

講 師 青木 仁志 氏 (アチーブメント株式会社 代表取締役社長)

#### ■情報交換会

#### (2) 第 18 回例会

- ① 日 時 平成 26 年 9 月 9 日 (火) 15:00～
- ② 場 所 たましん事業支援センター (Win センター)
- ③ 内 容 ■事業中間報告

#### ■多摩未来奨学金について

細野 助博 氏 (学術・文化・産業ネットワーク多摩 専務理事 中央大学教授)

#### ■マッチング会

受賞企業 16 社によるプレゼンテーション

#### ■情報交換会

# 第17回例会報告

## — 第1部講演 —

### 『60年前の多摩』

例会第1部では、『60年前の多摩』をテーマに、作家・エッセイストであり、たましが企画する「多摩カレッジ」の名誉学長である嵐山 光三郎氏にお話をいただきました。

#### 講演内容

私が生まれた頃は戦中で、母親の実家がある静岡に疎開していました。藤沢に2年ほど住んだ後、6才の時(1948年)から国立に住み始めました。

戦後、住む家がなくなった境遇の社員に対して、新聞協会が国立に30軒ほどの社宅を建てました。新聞の街ということで「プレスタウン」と名付けられましたが、私の父が新聞社に勤めていた関係で、私たち一家もそこに移り住むことになったのです。

住み始めた頃は、仮設住宅でした。電気は通っていたのですが、水道はなく、水汲みをしていました。まるで北海道の開拓民のようでした。隣の家との区別がほとんどなく、ススキが一面を覆ったただの原っぱでした。イタチやキツネ、タヌキもいました。他に何もありませんでしたが、夕日はとてもきれいなところでした。私はこのプレスタウンで育ち、今もまた国立に戻り住んでいるという次第です。

多摩の特徴というと、多摩川沿いの小金井の桜・青梅・レジャー施設・別荘・そして霊園ですね。東京が肥大化してくると、施設を作る土地がなくなり、こういったものを多摩にどんどん作っていったのです。

皆さんは意外に思うかもしれませんが、明治26年まで多摩は神奈川県でした。多摩が東京府に移管されたのは、東京の飲み水である玉川上水を東京府が維持管理すること、また織物が盛んな八王子と東京を結ぶ甲武鉄道(現中央線)や京王線が開通したこと、これらが主な理由でした。

昔、八王子を「桑都」、立川を「空都」と呼んでいました。立川には飛行場があり、国立の大学通りは、いざとなれば飛行機が着陸できる滑走路として設計されていたのです。戦後、米軍が立川に入ってくると、立川の街は様変わりしました。現在の立川も、若者が多く、街として活性化し



ています。映画館や東京の名店もあり、また、昭和記念公園など自然も豊かで、モノレールも通っていて、充実しています。

東京には昔に比べて変わった街があります。例えば、明らかに六本木は変わりました。現在六本木に住んでいる人たちは、外国人や富裕層など限られた人たちです。街が新しくなると「情」がなくなるのです。住んでいる人たちの匂いを感じられなくなり、面白みがなくなりました。お店の接客も温かみがなくなり、街が活性化していないように感じます。街の芸術・文化・学校・教育など、住んでいる人が街を活性化することが大事です。

多摩も今後、住んでいる人たちが“生きている”街を作れるか、多摩の“力”をどのように育てていくかがテーマだと思います。

“生きている”街は、そこに住む若い人たちが積極的に活動することです。町内会、教育委員会、警察がしっかりしていることです。また、市長の人柄、商店や学生など街全体が生きているかどうかということ。それから、うるさいおばさんも必要です。そうすることで街がどんどん発展していくのです。

そして、多摩の企業を育てることも重要です。ぜひ企業の方々も多摩の人たちとともに“生きている”街づくりをしてもらいたいと思います。

#### 嵐山 光三郎 氏 [作家・エッセイスト]

1942年静岡県生まれ。平凡社「太陽」の編集長を経て、執筆活動に専念。1988年「素人庖丁記」で講談社エッセイ賞を受賞。2000年「芭蕉の誘惑」JTBB紀行文学賞(のちに「芭蕉紀行」と改め新潮文庫化)。2006年「悪党芭蕉」泉鏡花文学賞。2007年読売文学賞をダブル受賞。「文人悪食」「文人暴食」「文人悪妻」「文士の料理店(レストラン)」(新潮文庫)など著書多数。

講師  
プロフィール  
Lecturer Profile

# 第17回例会報告

## — 第2部講演 —

### 『戦略を超える理念経営～成果と人間関係を両立する組織づくり～』

例会第2部では、『戦略を超える理念経営～成果と人間関係を両立する組織づくり～』をテーマに、アチーブメント株式会社 代表取締役社長の青木 仁志氏にお話をいただきました。

#### 講演内容

よく経営者の方から「いい人材が集まらない」という声を聞きます。これにはまず、「私が」という主語を「社員が」に変えてみることをお勧めします。「社員が求めているものは何か?」「社員にとって一番大切なものは何か?」と、経営者が社員の視点で考えるのです。

目先の利潤ばかり追いかけていると、魅力的な会社とは映らず、結果的に優秀な学生は集まってきません。まず学生の心を知り、学生の視点に立ち、多くの学生が入りたいと思う仕組みを作ることが大事です。そして「理念共感型」の採用をすることです。価値観の合う人を採用すれば、結果的に利益が上がっていきます。中途採用よりも新卒採用を選択することも、成功する要因の一つです。なぜなら、理念の継承ができるからです。

人材教育も経営者を悩ます問題のひとつです。私たちは主観の塊です。しかし、仕事には、客観的に行動を自己評価する能力が必要です。そこで、社員には強制をせずにバリューマネジメント(価値観教育)を行います。「正しいこと」「人のためになること」について仕事を通して考えさせるのです。「正しいこと」を仮説構築でき、どの社員も同じ答えが出せる企業がいい企業です。経営者がいなくても同じマインドの社員がいるということですから。



「目標経営」と「目的経営」の違いについてお話しします。「目標経営」は目標に焦点を当てた経営で、「売れば良い」という誤った経営につながりやすい方針です。対して「目的経営」は、目的を軸に据えた経営で、理念を中心に据え、利益を目指し、「理」と「利」の統合を目指します。

よい経営者は、社員の心に火をつけ、モチベーションを上げ、「内発的な動機づけ」を起こす達人です。人間は働く動物ですが、しかし、働かされたくはないのです。価値ありと認められた仕事を、自分の意思で選びたいのです。この「内発的な動機づけ」に基づいて、みんなで目的経営をしていくのです。

経営者に大事なことがいくつかあります。一つ目は、自己管理つまり人生経営です。家庭をきちんと治め、社員との関係を確立させ、取引先を大事にすることです。目的から目を離さないように「何のために、誰のためになぜ経営しているか」を考え、時間とお金の使い方をチェックします。

二つ目は、「自分はどうしたいのか」という本当にやりたいことへの純粋なこだわりです。みんなの心がひとつになるような目的をもち、共に生きる人、共に働く人が望むことを意識することが大事です。企業の理念と個人の価値観を無理に変えることはありません。

そして、誰もが正しいと思うことを目的に経営することです。急ぐことなく、重要なことを正しく選択し、実践していくこと、これが三つ目に大事なことです。

経営の目的とは、決して利潤の追求ではなく、「人を幸せにすること」だと私は考えます。社員にとっての幸せ、顧客にとっての幸せ、社会にとっての幸せ……。これを一言で表すならば「物心両面の豊かな人生の実現」です。こういった志の高さこそ、経営者に最も重要なことではないでしょうか。

#### 講師プロフィール Lecturer Profile

青木 仁志 氏 [アチーブメント株式会社 代表取締役社長]

1955年3月北海道函館市生まれ。1987年、選択理論心理学を基礎理論とした人材教育コンサルティング会社「アチーブメント株式会社」を設立、代表取締役社長に就任。自ら講師を務める「戦略的目標達成プログラム「頂点への道」講座」は、講座開講以来、23年間で591回開催し、新規受講生は28,022名。「日本でいちばん大切にしたい会社大賞」の審査委員も務めるなど、中小企業経営者教育にも取り組んでいる。

# 第18回例会報告

## 『マッチング会』

第18回例会は、倶楽部会員相互の理解を深めること、新たな連携の創造などを目的としたマッチング会を行いました。

マッチング会では、会場を2つに分け、事前にPRの申し出のあった会員企業16社による受賞内容やその後の展開について、また、今後の技術連携や異業種連携などについてプレゼンテーションを行いました。より開かれたマッチング会とするため、会員企業以外の事業者の見学も可能とし、71名の参加をいただきました。

優れた技術・製品や、特徴あるビジネスモデルに触れることにより、改めて各企業の特色やノウハウについてより理解を深める機会となりました。



マッチング会の後は、情報交換会を実施し、参加者同士による活発な情報交換会が行われました。その結果、36件の新たな面談が行われ、盛況のうちに閉会を迎えることができました。



### ■参加者の声

- ・初めて参加しましたが、参加者同士の交流は大変有意義でした。また参加したいです。
- ・会員企業とつながるキッカケが欲しいと思い参加しましたが、良い出会いが沢山あり、貴重な時間を過ごすことができました。
- ・たくさんの企業が参加されていること、また、とても活気があることに驚きました。次の機会にはプレゼンテーションにチャレンジしてみたいです。

### ■PR実施企業(16社)

- アートビーム有限会社  
(第4回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- アルウェットテクノロジー株式会社  
(第10回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- エー・アンド・エー株式会社  
(第9回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 株式会社MNH  
(第11回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 株式会社オンチップ・バイオテクノロジーズ  
(第10回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 株式会社 キャリア・ママ  
(第2回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 株式会社グローバルエージェンツ  
(第9回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 特定非営利活動法人「育て上げ」ネット  
(第6回・第9回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 株式会社CSS技術開発  
(第11回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- スピーダーレンタル株式会社  
(第10回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- たなべ物産株式会社  
(第10回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 一般社団法人 調布アイランド  
(第10回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 有限会社でく工房  
(第8回・第9回 多摩ブルー賞 優秀賞)
- 東京システム運輸ホールディングス株式会社  
(第7回 多摩グリーン賞 優秀賞)
- 前田金属工業株式会社  
(第1回 多摩グリーン賞 最優秀賞)
- 未来環境開発研究所株式会社  
(第9回 多摩ブルー賞 優秀賞)

## 2. 実施事業

### (1) 会員企業相互訪問

倶楽部会員同士の理解を深めるため、会員企業を訪問しました。

実施日：平成 26 年 6 月 17 日（火）

訪問先：白山工業株式会社（第 11 回多摩ブルー賞 最優秀賞 受賞）

エム・ケー株式会社（第 11 回多摩グリーン賞 最優秀賞 受賞）

訪問者：15 名（敬称略 順不同）

#### ■参加会員（敬称略 順不同）

臼井 努 京西テクノス株式会社 代表取締役社長

高城 雄三 株式会社 CSS 技術開発 代表取締役

田辺 裕康 たなべ物産株式会社 代表取締役社長

安東 邦彦 特定非営利活動法人 多摩草むらの会

西山 正 経済産業省 関東経済産業局

葛西 志耕 経済産業省 関東経済産業局

白石 千紘 経済産業省 関東経済産業局

西島 慧一 信金中央金庫 東京営業部

上農 峻輔 信金中央金庫 東京営業部

### (2) ボランティアの実施

実施日：平成 26 年 11 月 8 日（土）

内 容：森林保全活動（間伐作業）

日本山岳会 高尾の森づくりの会協力

場 所：裏高尾小下沢風景林



### (3) 多摩未来奨学金

公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（以下、ネットワーク多摩という）主催のもと設立された「多摩未来奨学金」に対し、会員企業より寄附を募り、「多摩ブルー・グリーン倶楽部」名義で「多摩未来奨学金」に寄附を行いました。



# 平成 26 年度事業報告（4 月～9 月）

## 会員企業相互訪問

### 白山工業株式会社

第 11 回 多摩ブルー賞 最優秀賞

### エム・ケー株式会社

第 11 回 多摩グリーン賞 最優秀賞

平成 26 年 6 月 17 日（火）、第 11 回多摩ブルー賞最優秀賞受賞企業である白山工業株式会社と、第 11 回多摩グリーン賞最優秀賞受賞企業のエム・ケー株式会社への会員企業相互訪問を行い、9 名の倶楽部会員が参加しました。

白山工業株式会社本社を訪問し、吉田社長から会社概要を、同社牛尾様からは受賞内容をご説明いただきました。

同社が開発した計測地震防災システム「VissQ」は、地震発生時のビルにおいて揺れの状況を計測しながら、人・建物の安全や事業継続の為に実際に計測したデータを用いて、迅速な対応を可能にする新しい地震防災システムです。同社の本社のある J タワーにおける、東日本大震災時の建物の被災状況の判定等についてご説明いただきました。

また、東京工業大学との共同研究で製品化した「地震ザブトン」の体験をさせていただきました。

倶楽部会員が実際に「地震ザブトン」に試乗し、実際のデータに基づいたで阪神・淡路大震災や東日本大震災での新宿高層ビルの揺れ・振幅の大きさを体験しました。

その後、活発な意見交換が行われました。

続いて、日野市に会場を移し、エム・ケー株式会社の企業訪問を行いました。

小林社長に創業当時から現在までの企業の沿革や、経営理念についてご説明をいただきました。

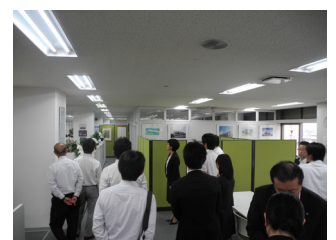
本社事務所の見学後、岩館専務取締役から受賞内容に基づく「地域活性化をもたらす市街化調整区域の開発」についてご説明いただきました。

市街化調整区域の一般的な開発成功率、地元地権者の同意形成、進出企業の誘致、地元行政の開発許可、地元住民への説明等地域に根ざしたビジネス展開とリアルな現場のお話を伺いました。

開発が地域にもたらす効果について、事例を交えてお話しいただきました。

今後のまちづくりの課題についても触れていただき、参加者各々が考えさせられる機会となりました。

最後に、参加者による懇親会を実施し、なごやかなムードの中、様々な意見交換を行い、楽しく有意義な会員企業相互訪問となりました。



■参加会員（敬称略 順不同）

臼井 努 京西テクノス株式会社 代表取締役社長  
高城 雄三 株式会社 CSS 技術開発 代表取締役  
田辺 裕康 たなべ物産株式会社 代表取締役社長  
安東 邦彦 特定非営利活動法人 多摩草むらの会  
西山 正 経済産業省 関東経済産業局  
葛西 志耕 経済産業省 関東経済産業局  
白石 千紘 経済産業省 関東経済産業局  
西島 慧一 信金中央金庫 東京営業部  
上農 峻輔 信金中央金庫 東京営業部

## 「多摩未来奨学金」取り組みについて

平成 26 年度の取り組みとして、25 年度に引き続き公益社団法人学術・文化・産業ネットワーク多摩（以下、ネットワーク多摩という）主催のもと設立された「多摩未来奨学金」に対し、受賞企業より寄附を募り、「多摩ブルー・グリーン倶楽部」名義で「多摩未来奨学金」に寄附を行いました。

1. 概 要：企業等から拠出された資金を原資とし、文部科学省による補助制度を活用した、ネットワーク多摩加盟大学・短期大学の学生を対象とする奨学金制度。  
現場体験などの実践的なカリキュラムを通じて、多摩地域活性化に資する人材育成を行う。
2. 目 的：本事業により、多摩地域の活性化に資する人材を育成することで、地域中小企業の活性化と、地域経済の振興に繋げる。  
「多摩ブルー・グリーン倶楽部」名義で寄附することで、本倶楽部名が奨学金案内や、ネットワーク多摩および各大学・短大のHPに協賛先として掲載され、本倶楽部のバリューアップとなる。
3. 寄付実施：18 社 195 万円
4. 交付式：多摩未来奨学生との交付式を実施しました。  
日程：平成 26 年 12 月 7 日（日）  
会場：法政大学多摩キャンパス百周年記念館

